

F-3 保育者養成に関する基礎的研究—本学生の保育者イメージの分析と課題—  
秋田短大 福田祐子

目的 子どもに直接かかわりを持つ保育者が、どのような資質を持った保育者であるかは、子どもにとってとても大きな作用を持つものとおもわれる。本学の保母資格取得希望学生が保育者に対してどのようなイメージを持っているか、実習経験を通してどのように変容するか、また年度によってどのように変容するかを分析し、保母資質向上の手掛りと保母養成の基礎資料を得ることを目的とする。

方法 一般学生として秋田短大家政科学生200名、保母志望学生として秋田短大家政科保母資格取得希望学生408名に対し保育者の資質について51年～53年にかけて11項目、54年は30項目による保育者イメージを設定し、5段階により評定させ各段階に意味づけをし平均尺度を求めた。

結果 ①保育者に対するイメージの変化については、一般学生・保母志望学生ともに好意的で肯定的イメージを持つ。特に保母志望学生は好意度が一般学生より0.05も高い。

②保育所保母と施設保母に対しては、保育所保母に対するイメージが施設保母より0.36も好意度が高い。

③実習経験による保育者イメージの変化は、保育所保母に対しては実習前と後では好意度が0.01と差はなく30項目中3項目のみに有意差が認められ好意度の低い方への変化が2項目みられた。施設保母に対しては実習前と後では好意度が0.37も低くなっており16項目に有意差がみられ12項目において好意度の低い方への変化がみられた。

④保母志望学生のみによる保育者イメージの年度による変容は認められなかった。